

分類 林業

林業用苗木の需要の高まりと新しい生産方法

研究の背景・目的

島根県ではスギ・ヒノキ人工林の資源が充実しつつあり、この資源を活用して「切って、使って、植える」循環型林業の構築を目指している。実際に近年は、原木生産量が増加する傾向にあり、これに伴って再造林面積も増加する傾向にある。しかし、再造林に必要な苗木は不足傾向であり、県内産の自給率も低い。このことから、苗木の増産が林業振興上重要な課題となっている。

従来、林業用苗木は苗畑で育苗されてきた（普通苗）。近年、コンテナ苗と呼ばれる苗木に注目している。コンテナ苗は活着率が良い、造林地での植栽効率が良いなどのメリットがある。また、コンテナ苗は夏場の草取りが不要、農閑期に作業ができる、病害虫が少ないなどのメリットがあり、新規農家が生産に参入しやすい。そこで、今後普及が期待できるコンテナ苗の栽培方法について詳しく解説したい。



スギコンテナ苗

生産方法

コンテナ苗の生産方法には移植方式と播種方式がある。

移植方式

移植方式は1年生床替苗を春（あるいは秋）にコンテナに移植し、半年間育苗して9月以降に出荷する。技術的に確立されているが、移植に手間がかかる。

播種方式

播種方式では3月上旬ごろコンテナに直接播種し、ハウス内で5月頃まで管理し、それ以降は露地で育苗する。肥料・散水量を適切に調整すれば、9月には旺盛に生育した苗木が得られる。翌年の4月以降に出荷できる。技術的に改良の余地を残しているが、低コストで生産できる。

コンテナ苗の栽培は遊休ハウスがあればハウス栽培を推奨する。ハウスがない場合は通年露地栽培が可能であるが、技術的に検討すべき点があり、この栽培方法を取り組みたい方はセンターに相談してほしい。



スギコンテナ苗(9月上旬時点。3月播種)
育苗方法の改善により、約6か月間という短期で旺盛に生育した。

研究成果の活用・今後の研究計画

コンテナ苗・普通苗の生産に関心をお持ちの方は各農林振興センター（あるいは中山間地域研究センター）にご相談ください。

MOUNTAINOUS REGION RESEARCH CENTER
島根県 中山間地域研究センター

〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207

担当科 : 森林保護科

研究担当者 : 陶山大志

問い合わせ先 : 0854-76-3823 (直通)

E-mail : Suyama-hiroshi@pref.shimane.lg.jp (代表)

試験研究課題名 : 持続可能な林業経営を目指した人工林の循環利用システムの開発 (研究期間 : H25~27)

